道 徳 科

木村 貴博　久保 涼子　瀬戸 辰徳　小野里 健太

主題「道徳的な課題を自分との関わりでとらえ、多面的・多角的に考えながら、人間としての生き方について考えを深められる生徒」の育成

１　主題設定の理由

本校道徳科では、昨年度、ICT を適切に活用することで、他者の意見と自分の意見の違いに興味や疑問をもち、議論を活発にするための手立てを講じた。また、「スタディログ」を活用して内容項目ごとの３年間の学びを蓄積し、それらを振り返ることで、「道徳的価値に対する自己の理解の深まりや考えの広がりを実感しながら道徳性を育み、よりよく生きようとする生徒」の育成を目指してきた。成果としては、ICT を活用して、自分の考えや心情を色や数字等で視覚的に分かりやすく表現し、表現した考えや心情を瞬時に他者と共有することで、自分の考えとの違いに興味や疑問をもち、活発に議論を行う様子が見られるようになった。さらに、「スタディログ」を活用し、授業後や学期末に同じ内容項目の記述を振り返ることで、自身の道徳性に関わる成長の様子を実感していることが分かる記述が見られるようになった。一方、課題としては、教材の登場人物の気持ちを考えることのみにとどまっている生徒や、道徳的な課題について多面的・多角的に考えを広げ深めていることが発言やワークシートの記述に見られない生徒がいた。また、これまでの学習で学んだことを生かしながら、授業に取り組んだり、人間としての生き方について考えを深めたりしていることが、発言やワークシートへの記述、実生活から見取ることができない生徒もいた。

そこで、本年度は「附中発問集」の作成とその活用、及び「スタディログ」の活用の工夫を通して、「道徳的な課題を自分との関わりでとらえ、多面的・多角的に考えながら、人間としての生き方について考えを深められる生徒」を育成したい。

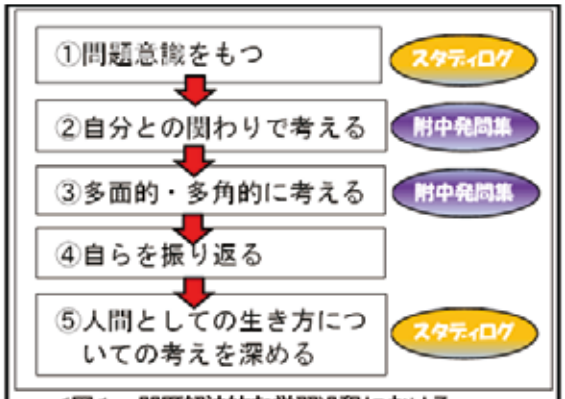
２　「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるための具体的な手立て

①「附中発問集」の作成と活用

道徳科の授業における発問は、生徒たちに考えるきっかけを与えるもので、授業者の工夫なしに充実した学びは保障できない。このことから、生徒が道徳的な課題を自分との関わりでとらえ、多面的・多角的に考えられるようにするためには、教師の発問を見直し、改善する必要があると考えた。そこで、これまでの道徳科の授業実践の中でされてきた様々な発問をその意図を踏まえ整理・分析し、「附中発問集」としてまとめた。具体的には、道徳科における問題解決的な学習過程のうち「②自分との関わりで考える」過程と「③多面的・多角的に考える」過程における発問を「附中発問集」としてまとめ、ねらいに応じて活用する（図１）。

「②自分との関わりで考える」過程では、「こういう気持ちって分かる？」など「登場人物に共感して気持ちを考える発問」と「自分にもそういう経験はある？」など「自分自身について考える発問」に分類し、それらを意図的に行い、道徳的な課題を自分との関わりで考えられるようにする（図２）。

「③多面的・多角的に考える」過程では、「物事を見る位置を変える発問」と「様々な立場に立たせる発問」に分類し、授業のねらいに応じて意図的に実践することで、多面的・多角的な視点で考えを広げ深められるようにする。特に、「様々な立場に立たせる発問」において、「A さん（友達）の考えに対してどう思うか？」など、教師が生徒の発言をつなげる発問を意図的にすることで、生徒対生徒の対話が生じ、「考え、議論する道徳」の実現につなげられるようにする。



<図１　問題解決的な学習過程における「附中発問集」と「スタディログ」の位置付け>

附中発問集

【　】は発問の意図

「自分との関わりで考える」過程での発問

○登場人物に共感して気持ちを考える発問

例　・A（登場人物）が～と思うのは、どんな気持ちからか？【多様な心情や気持ちを分析する】
　　・B（登場人物）はどうしたらよかったと思うか？【判断に迫る】
　　・C（登場人物）に（が）感動するのはなぜか？【価値理解】

○自分自身について考える発問

例　・自分だったらどうするか（どんな気持ちになるか）（～できるだろうか）？【自我関与】
　　・（～のとき）こういう気持ちは分かるか（同じ気持ちになったことはあるか）？【人間理解】
　　・自分にもそういう経験はあるか？【自分の経験と関連付けて考える】

「多面的・多角的に考える」過程での発問

○物事を見る位置を変える発問

例　・なぜ～だろうか？【道徳的行為の理由を考える】
　　・～な気持ちがもてるとどんな生き方ができるだろうか？【時間軸を変える】
　　・どんな（なぜ）気持ちの変化があっただろうか？【前後を比較する】
　　・（本当の）○○（道徳的価値）ってなんだろうか？【道徳的価値の本質について考える】
　　・もし～ならどうだろうか？【条件を変えて考える、仮説的に考える】
　　・A（登場人物）は本当に～してよかったのだろうか【批判的に考える】

○様々な立場に立たせる発問

例　・A さん（友達）の考えに対してどう思うか？【他者理解】
　　・B さん（友達）と C くん（友達）のどちらの考えに共感するか（考えの違いは何か）？【他者の考えを比較する】
　　・D（別の登場人物）はどんな気持ちだったか？【視点を変える】

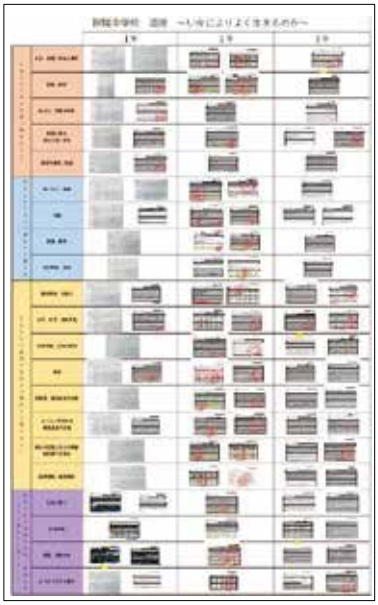
＜図２　附中発問集の例＞

②「スタディログ」の活用の工夫

本校では、道徳的価値に対する自己の理解の深まりや考えの広がりを実感できるように、授業で使ったワークシートを内容項目ごとに分類して蓄積できるようにまとめた「スタディログ」を活用している（図３）。「スタディログ」の活用の１つ目の工夫としては、「①問題意識をもつ」過程で、「スタディログ」に蓄積した同じ内容項目のワークシートの記述を振り返ることで、これまでの学びを基に自己の課題を把握させる（図１）。

具体的には、これまでの授業でワークシートに書いた考えや実践しようと思ったことと、現在の自分の生き方と比較し、そのギャップに気付くことから課題を設定することで、より問題意識をもちながら授業に取り組むことができるようにする。

２つ目の工夫としては、「⑤人間としての生き方についての考えを深める」過程で、「スタディログ」を活用して、これまでの自身の学びを振り返る活動を設定する（図１）。自らの学びを振り返る際に、本時と同じ内容項目や関連がある内容項目でこれまで自分がどのようなことを学んだのかを、蓄積したワークシートへの記述を読みながら確認する活動を設定する。このことにより、一人一人がこれまでの学びを生かしながら、人間としての生き方について考えを深められる生徒を育成したい。



＜図３　スタディログ（３学年）の例＞

<使用したアプリ等>
ロイロノート

<花に寄せて>

一体的な充実に向けた手立て

①「附中発問集」の作成と活用
②「スタディログ」の活用の工夫

<本時の目標>
絶望からはい上がって絵を描き続ける主人公の生き方に共感し、困難や障害を乗り越え、人間としての誇りをもって、よりよく生きていこうとする態度を育てる。

スタディログを活用し、課題を設定する。

・「スタディログ」に蓄積した、本時と同じ内容項目のワークシートの記述を確認させることで、ワークシートに書いた自分の考えと現在の自分の生き方とのギャップに気付かせ、課題を設定させる。

「弱い心を乗り越えて誇りをもって生きたい」と書いたけど、今は、負けることが多くて、誇りをもって生きているとは言えないな。

これまでの考えと、現在の自分を比較することで、問題意識をもつ。

個 本時と同じ内容項目である「よりよく生きる喜び」について学習した際のワークシートへの記述を導入で読ませながら現在の自分の生き方と比較させることで、当時ワークシートに書いた自分の考えと現在の自分の生き方とのギャップに気付き、問題意識をもって、課題を設定することができるようにする。

「附中発問集」を生かし、発問を工夫する。

・「附中発問集」を活用して意図的な発問を行うことで、道徳的な課題を自分との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりさせる。

もし体育教師として生きていたら、同じ幸せを感じられただろうか。

「附中発問集」を活用した発問を基に、考えを広げたり、深めたりする。

個 作品を展覧会に出したのはどんな気持ちからだろうか。」と教材の登場人物に共感して気持ちを考える発問をすることで、道徳的な課題を自分との関わりで考えられるようにする。

協 「私」と「私の展覧会に参加した人」それぞれの立場に立たせて気持ちを問う発問や「もし、体育教師として生きていたら、同じ幸せを感じられただろうか」と仮説的に考える発問をねらいに応じて行うことで、多面的・多角的な視点を生かしながら、考えを広げ、深められるようにする。

スタディログを活用し、振り返る。

・本時と同じ内容項目について扱った授業のワークシートへの記述を、展開の終末で自らの学びを振り返る際に確認させる。

同じ内容項目の過去のワークシートへの記述

私は弱い心に負け、後悔することがよくある。だから、自分の弱さは何かをよく考えて、向き合うことで乗り越えていきたい。そうすることで、自分の生き方に誇りをもっていきたい。

本時のワークシートへの記述

私が心の弱さに負けることが多いのは、困難に向き合えなかったり、自分の生き方に自信がもてていなかったりすることが原因だと分かった。しかし、困難を乗り越え自信をもって生きる姿は人に感動を与えるし、自分も自分の生き方に誇りがもてる。今後は、そんな誇りをもてる生き方をしたい。

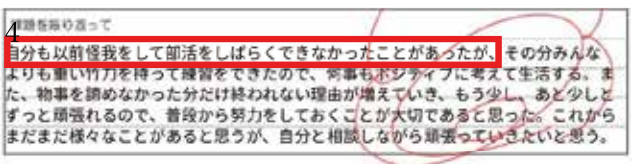
スタディログに蓄積したこれまでの学びを生かしながら課題に対する考えを書く。

個 本時と同じ内容項目である「よりよく生きる喜び」について学習した際のワークシートへの記述を、自らを振り返り考えを書く際に確認させることで、これまでの学びを生かしながら、人間としての生き方について振り返り、考えを深めることができるようにする。

・「附中発問集」を生かした発問の工夫をすることで、自分との関わりで考えたり、多面的・多角的な視点を生かしたりしながら、考えを広げ深めたことが発言やワークシートから見取ることができた。
・「スタディログ」の活用の工夫をすることで、これまでの学びを生かし、課題を設定することができた。また、人間としての生き方について考えを深めていることが、ワークシートへの記述から見取ることができた。

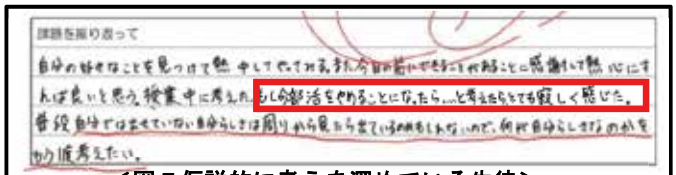
３　成果と課題

成果として、「附中発問集」を活用し、道徳的な課題について「自分との関わりで考えられるようにする発問」の工夫をすることで、教材文の登場人物の気持ちを考えるだけではなく、道徳的価値を自分との関わりで深めている姿が、授業中の活動やワークシートへの記述に見られるようになった（図４）。さらに、「多面的・多角的に考える発問」をすることで、「もし、今、部活を辞めることになったら」など仮説的に考えたり、「実際に自分にして考えてみると」など自我関与をしながら、多面的・多角的な視点で考えを広げ深めたりしている姿が、発言やワークシートへの記述に見られるようになった（図５、図６）。


課題を振り返って

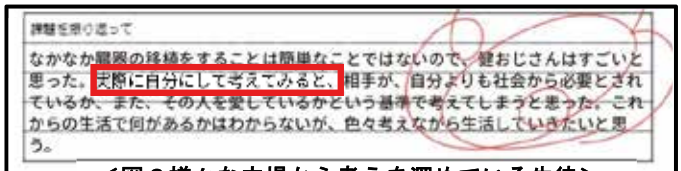
自分も以前怪我をして部活をしばらくできなかったことがあったが、その分みんなよりも重い竹刀を持って練習をできたので、何事もポジティブに考えて生活する。また、物事を諦めなかった分だけ終われない理由が増えていき、もう少し、あと少しとずっと頑張れるので、普段から努力をしておくことが大切であると思った。これからまだまだ様々なことがあると思うが、自分と相談しながら頑張っていきたいと思う。

＜図４自分の経験と関連付けながら考えを深めている生徒＞


課題を振り返って

自分の好きなことを見つけて熱中してやれる。また今自分の苦手なことに挑戦して熱心にすれば良いと思う。授業中に考えた、もし部活をやめることになったら…と考えたらとても寂しく感じた。普段自分ではまもっていない自分らしさは周りから見たらまもっているかもしれないので、何が自分らしさなのかを少し考えたい。

＜図５仮説的に考えを深めている生徒＞

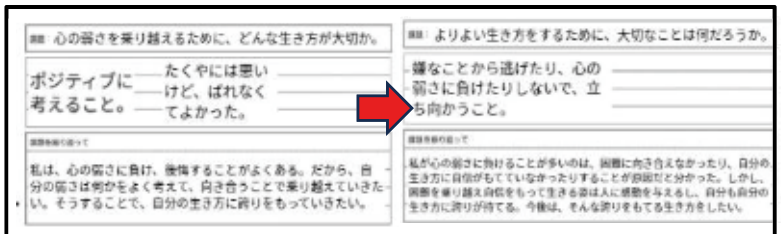

課題を振り返って

なかなか最期の終焉をすることは簡単なことではないので、健おじさんはすごいと思った。実際に自分にして考えてみると、相手が、自分よりも社会から必要とされているか、また、その人を愛しているかという基準で考えてしまうと思った。これからの生活で何があるかはわからないが、色々考えながら生活していきたいと思う。

＜図６様々な立場から考えを深めている生徒＞

また、「①問題意識をもつ」過程で、「スタディログ」を振り返り、現在の自分の生き方と過去の自分の考えを比較することで、授業の中で「『弱い心を乗り越えて誇りをもって生きたい』と書いたけど、今は、負けることが多くて、誇りをもって生きているとは言えないな。」と発言するなど、より道徳的価値に対して問題意識をもちながら授業に取り組むことができるようなった。さらに、「⑤人間としての生き方についての考えを深める」過程で、「スタディログ」を活用して、これまでの自身の学びを振り返る活動を設定することで、これまでの学びを生かしながら、人間としての生き方について考えを深めている姿が、ワークシートへの記述に見られるようになった（図７）。

このように、問題解決的な学習過程の中で、「附中発問集」や「スタディログ」を活用することで、道徳的な課題を自分との関わりでとらえ、多面的・多角的に考えながら、人間としての生き方について考えを深められる生徒の育成につながった。


課題：心の弱さを乗り越えるために、どんな生き方が大切か。

ポジティブに考えること。

たくやには悪いけど、ばれなくてよかった。

課題：よりよい生き方をするために、大切なことは何だろうか。

嫌なことから逃げたり、心の弱さに負けたりしないで、立ち向かうこと。

課題を振り返って

私は、心の弱さに負け、後悔することがよくある。だから、自分の弱さは何かをよく考えて、向き合うことで乗り越えていきたい。そうすることで、自分の生き方に誇りをもっていきたい。

課題を振り返って

私が心の弱さに負けることが多いのは、周囲に向き合えなかったり、自分の生き方に自信がもてていなかったりすることが原因だと分かった。しかし、困難を乗り越え自信をもって生きる姿は人に感動を与えるし、自分も自分の生き方に誇りが持てる。今後は、そんな誇りをもてる生き方をしたい。

＜図７ 学びを生かしながら、人間としての生き方について考えを深めている生徒＞

課題としては、教師対生徒のやりとりが中心の授業展開となるケースがあった。発問の柔軟性をもちながら、「考え、議論する道徳」が実現できるよう、発問や指導の工夫について考えていく必要がある。

４　今後の展望

道徳科における「話し合いの仕方」及び、教師のコーディネーター役としての在り方について検討し実践することで、生徒同士の対話を生み、多面的・多角的な視点を生かしながら問題解決できるようにする。また、道徳科の学習過程を構造化し、学習過程の各過程の関係を構築させることで、一連のストーリーのある授業デザインができるようにしたい。

＜参考文献＞

浅見　哲也（2021）『道徳科　授業構想グラウンドデザイン』　明治図書
群馬県教育委員会（2019）『はばたく群馬の指導プランⅡ』
文部科学省（2018）『学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』　教育出版